博物館教育論における学習プログラム構築の実践

山内 利秋

はじめに

博物館における教育活動には、学校教育と異なって学習指導要領が存在しない。これは博物館の存在が学校とは違う教育活動を実践する場であり、なおかつ館の役割やコレクションが一様でないために、等しく同じ学習活動を実施し得ないという理由がある。

従って一律な学習者に対する目標や評価を立てにくいのであるが (註 1)、一方で各地の博物館においてはすでに一定の教育普及活動に関する蓄積があり、総合的な学習の時間を通じて学校教育との連携も浸透してい事も多ので、館の規模や参加者にあわせて、一定の教育目標を持った様々な学習プログラムが構築されているのは言うまでもない。これらは経験的に蓄積されてきたプログラムではあるが、博物館におけるプログラムの企画化そのものを学習する初学者にとっては十分に参考となるものである。

本、九州保健福祉大学での学芸員養成では、博物館教育論においてこの学習プログラムの企画・立案化の学習を行っている。これについて紹介したい。

学習プログラムの企画化を学ぶ

本学での博物館教育論においては、平成 25 年度よりテキストとして小笠原喜康他編『博物館教育論　新しい博物館教育を描き出す』を活用している。本書のうち、特に第 4 章 2・3 節にあたる木下周一•横山千晶による「教育プログラムの立案と実施プロセス」「ワークシートなどの教材作成法」(木下•横山 2012) では、学習材を教育プログラム化していくプロセスやワークシートのデザインが理解しやすく説明されている。そこで授業ではこの節をベースにして、実際に教育プログラム案の作成を実施している。

テキストの第 4 章 2 節に記載された「1. 学習材の発見」•「2. 学習材のプログラム化」•「3. 準備から実施まで」•「4. 報告」という順序を追いながら内容を解説すると同時に、受講生は実際に学習プログラムの構築をシミュレーションしていく。このシミュレーションの最初の段階ではあくまでも受講生個々人の技量取得を目的としており、内容には制限を設けていなかった。しかし、学習材の発見においては、受講生は何を活用していいものなのか戸惑い、最終的に博物館で実施するには不適な材料を選択し、さらにその実現についてあまりにも実効性の低いケースが多かった。この事は本学の受講生が博物館において行われる教育プログラムそのものに参加した経験が少ない事を端的に物語っており、今後の検討材料とするべき点でもある。

受講生は講義での説明内容に沿って各人が企画を考え、これをポスターとしてまとめて授業内で一人一人発表する。企画にはテーマ・方法・目的・活用する学習材・タイトル等を考え、さらに実施の詳細について決定していく上で下記の条件を課した。

・タイトルについて：何故そのタイトルにしたのかも説明出来るようにする。

・どのような手法・形態か：手法・形態のみならず、どうしてその手法・形態になったのかも説明する。
・会場：会場の選択理由について、プログラムにとって妥当な選択か。
・実施の詳細：作業日程・実施当日のタイムスケジュールについての検討。告知期間を考慮に入れる。

こうして企画化したの各々のプログラムを発表する事によって他の受講生からフィードバックを得るだけでなく、さらに次回の企画にこれを取り入れて改善出来るようにする事で、受講生は一連の活動が PDCA サイクルの中で展開される点をはじめて考慮するようになる。これを踏まえ、授業では企画立案作業を一度で終わらせずにもう一度実施している。

この 2 回目の段階では学習材を特定なものに限定し、それを使っての企画構築を実施した。平成 24 年度の素材は「切り絵」をテーマとして活用した。1 回目の企画作成と大きく違う事は、受講生が最初に切り絵そのものを体験的に学習する事によって、必要時間や注意点・難易さ・工夫するべき点等について十分把握して、それを念頭に置いてのプログラムを構築していくという点にある。

アールデコ建築の切り絵を実際にやってみる

今回活用したのは我が国のアールデコ建築の代表格である旧朝香宮邸 (東京都指定有形文化財) を施設としている東京都庭園美術館が、同施設の建築意匠をモチーフとした切り絵集『たてもの文様帖』(下中・東京都庭園美術館 2014) を活用した。この切り絵集は同美術館のワークショップから産まれたものである。切り絵プログラムが博物館における教育普及プログラムとして構築されたものである点は、受講生が博物館教育を学習する上でも妥当な学習材であり、なおかつ紙とそれを切るカッターという身近な素材と道具を使うという点でも着目出来る。

受講生はこの切り絵集から各自 2 種類選んで、実際に作業を体験した。さらに、受講生全員で、切り絵を体験した結果について意見を出し合った。来場者がプログラムを体験するにあたっての様々なポイントについて、受講生間での共有がみられたと同時に、「よりよい学習プログラムとはどんなものか」といったアイデアがこの際に出されている。この一連のプロセスを経る事で、彼ら受講生間で学習プログラムを行うに際して不可欠となる一定の規範が了解されていくのである。

次の段階として、受講生個々人で切り絵を学習材としたプログラムを個別に立案していく作業を実施した。各人が作成したプログラムのタイトルは表に挙げたが (表 1)、さらにこれを大学内の掲示板に貼りだし、学内で公開して意見を求めた。公開する事で受講生は人にみてもらう点を意識したプロ

表：学生の立案した教育プログラム

テーマ	意義・目的	教育的効果
オリジナルのコースター＆キーホルダーをつくろう！！！	日常生活では体験することができない細かい作業を行うことで、達成感を味わってもらう。この企画を通して家に閉じこもってばかりではなく、少しでも町に足をはこんでもらうことで、地域活性化に繋がればよい。	集中力を高めるトレーニングとなる。幅広い年齢層の人々と交流することで、会話を楽しみコミュニケーション能力の向上、または身に付けてもらう。
色んなものに文様をつけよう	切り絵をして それだけで終わはなく、そのできたのを使って紋様(ママ)にしたり雑貨に模様(ママ)として使えたり、コースターやお菓子の柄として使える。自分の手を加えることでそのものに愛着を持ってもらう。	物がいろんなことに多様(ママ)できる可能性があることを知る。
切り絵でドーン！アンドーン！	日本の模様の多様さ、行燈の美しさを知ってほしい。	日本の伝統のものに興味を持ってもらう。
大人の切り絵&羊毛フェルト	2つのことをしてもらうでより楽しんでもらう。時間はかかるが完成した時の達成感を感じてもらう。	教育的効果は何事も興味をもつところから始まると思うのでナイフや針の使い方を学んでもらい切り絵や羊毛フェルトがあるということを知り興味をもってらうこと 。
ランチョマットを作ってみよう	ご飯を食べる時に自分で作ったランチョマットがあれば 飯の時間がより楽しくなると思う。	想像力を働かせる 。
アールデコ・ルーム	アールデコについて知り、興味をもってもらう。また、実際に自分で実際にイメージした空間を作ることで、よりアートに親しんでもらう。	意義・目的に同じ。
切り絵でしおりを作っちゃおう！	子供から大人まで活用できるしおり作りを行い、紙を切る作業から作品として仕上げるまでの工程で1つのモノを作る素晴らしさを知ってもらいまた、しおり作りをきっかけに子供たちが本を読む機会が増えると良いと考える。	意義・目的に同じ。

グラムを立案し、さらにこの結果をフィードバックして自らの学修に対する効果を高めていく事が可能になると予想される。平成 26 年度の取り組みでは、実際に受講生に対するフィードバックの効果を確認するに至らなかったものの、次の段階で受講する博物館実習のうち学内実習で、こうした成果は確認出来るだろう。

下中菜穂・東京都庭園美術館 2014『たてもの文様帖　日本のアール・デコ建築東京都庭園美術館の巻』エクスプランテ

木下周一・横山千晶 2012「教育プログラムの立案と実施プロセス」「ワークシートなどの教材作成法」
小笠原喜康他編『博物館教育論　新しい博物館教育を描き出す』ぎょうせい
p.74 ～ 81, p.82 ～ 89

切り絵でドーン！アンドーン！

目的：日本の模様の多様さ、行燈の美しさを知ってほしい
教育効果：日本の伝統のものに興味を持ってもらう
対象：12 歳以上
日時：８月１０日　１３：００～１５：３０
参加費用：３００円
内容：日本の文様で切り絵をする
　　　できた切り絵から行灯を作る
会場：のべおか市民協働まちづくりセンター1 階

連絡先：九州保健福祉大学　薬学部
　　　　動物生命薬科学科　3 年
　　　　山田花子
　　　　TEL:0982-××-○×△□

博物館教育論企画の評価

・行燈の図や模様の例などを入れたことで、
　すごくわかりやすくなっているのが、いいと思います。
・タイトルがユニークで人が引きつけられそう！
・タイトルが面白くて目を引くと思う。
　図があってわかり易いと思った。
・図とか地図とか枠があって、みやすくて良かった。
　タイトルが変わっていていいなと思った。
・模様がキレイでひきつけられる。
・行燈の設計図も書いてあり、タイムスケジュールも
　しっかりとしているのでいいと思う。
　鑑賞会やアンケート記入があるなら、もう少し時間を
　長くしてもいいと思う。

博物館教育論企画の評価

・行燈の図や模様の例などを入れたことで、
　すごくわかりやすくなっているのが、いいと思います。
・タイトルがユニークで人が引きつけられそう！
・タイトルが面白くて目を引くと思う。
　図があってわかり易いと思った。
・図とか地図とか枠があって、みやすくて良かった。
　タイトルが変わっていていいなと思った。
・模様がキレイでひきつけられる。
・行燈の設計図も書いてあり、タイムスケジュールも
　しっかりとしているのでいいと思う。
　鑑賞会やアンケート記入があるなら、もう少し時間を
　長くしてもいいと思う。

図：教育プログラムの事例